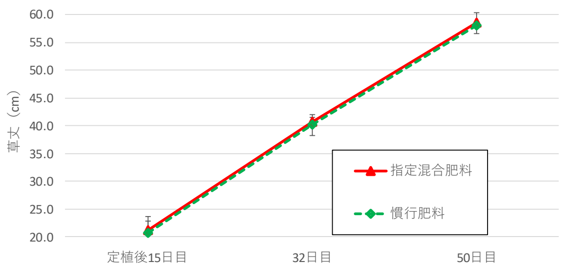
令和４年度　三重農研成果情報　＜普及成果＞

葉ネギ用指定混合肥料の施用効果

利用対象：葉ネギ生産者

目的：堆肥を普通肥料と配合・造粒した指定混合肥料は、一度の作業で施肥と土づくりを同時にできるメリットがあります。そこで、葉ネギ用に開発された指定混合肥料の施用が葉ネギの収量・品質に及ぼす影響を調査し、実用性の評価を行いました。

成果：夏まき秋どり、および秋まき冬どりの各作型において、草丈は指定混合肥料区で慣行肥料区よりも高く推移しました。また、規格品の収量は、慣行肥料区より多くなる傾向がみられました。



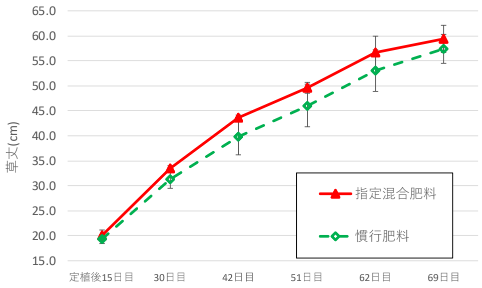


図 草丈の推移　夏まき秋どり作型（左）秋まき冬どり作型（右）

※定植日：夏まき秋どり作型６月９日、秋まき冬どり作型９月 27 日

表　収量調査

試験区		規格別重量(g m^{-2}) 秀2L	優2L	秀L	秀M	優M	規格外	規格品率(%)	規格品収量(g m^{-2})	SPAD値
夏まき秋どり作型	指定混合肥料	195.1	50.2	2131.7	388.1	48.6	13.2	100	2813.6	60.6
	慣行肥料	93.8	-	1878.2	432.1	51.9	16.9	99	2456.0	60.2
秋まき冬どり作型	指定混合肥料	13.4	-	2006.0	890.7	187.3	99.7	97	3097.4	58.9
	慣行肥料	-	-	1337.2	1068.1	247.1	70.4	97	2652.5	58.3
分散分析(夏まき秋どり作型)		-	-	-	-	-	-	-	n.s.	n.s.
分散分析(秋まき冬どり作型)		-	-	-	-	-	-	-	n.s.	n.s.

注）夏まき秋どり作型：定植日6月9日、収穫日8月8日(定植60日後)、秋まき冬どり作型：定植日9月27日、収穫日12月7日(定植71日後)。

注）葉色素計SPAD-502による値。

注）分散分析結果について、*は5%水準、**は1%水準で有意差があること、n.s.は5%水準で有意差がないことを示す。

粒状配合肥料のため、従来の作業体系での施用が可能

（利用場面と留意点）

○　本試験結果は、三重県農業研究所内ほ場（三重県松阪市）において葉ネギ‘さんぺい葱’を用い、夏まき秋どり作型、および秋まき冬どり作型で得られたものです。

○　栽培期間中の追肥は行っていません。生育期間が長くなる場合には、必要に応じて追肥を行ってください。また、リン酸含有量が基準値を下回る圃場で栽培する場合には、リン酸質肥料を施用し、土壌改良したうえで利用してください。

お問い合わせ先	基盤技術研究室　フード・循環研究課　萩原茉莉　　電話　0598-42-6361 中央農業改良普及センター　　　　　　中村元彦　　電話　0598-42-6323
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm（三重農研HP）